



四季便り

The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



イカリソウ



トキワイカリソウ

イカリソウ

- 学名 : *Epimedium grandiflorum*
 生薬名 : 淫羊藿(いんようかく)
 薬用部位 : 地上部
 薬効 : 強壮、強精



イカリソウの花は4枚の細長い管状で独特の形をしています。船の錨(イカリ)に似ていることからその名が付けられたと言われています。別名の「放杖草」は、この茎葉を煎じて飲んだ老人が杖がいなくなるほど元気になったことが由来だといわれています。

中国・明代の薬物書『本草綱目』に「西川(現在の四川)に1日に100回も交尾するすごい雄ヤギがいた。そのヤギがいったい何を食べてこうも強いのだろうと遠くから眺めていたところ、村人が藿(カク)と呼んでいる植物であることがわかり、それ以降これを淫羊藿と名付けて強壮生薬として用いるようになった」と記されています。

イカリソウは世界に約20種分布しておりそのうち強壮・強精作用成分の最も多く含まれているのがホザキノイカリソウで、生薬「淫羊藿」の代表的な基原植物です。性ホルモンの分泌を促し、知覚神経を興奮させ、末梢血管を拡張して血流を亢進させる作用があるといわれ、生殖機能の低下、老化に伴う衰弱、関節の痛み、倦怠無力感、健忘、神経衰弱などに用いられています。滋養強壮薬やドリンク剤、薬用養命酒をはじめとする薬用酒に滋養強壮薬として配合されています。

